

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471901338
法人名	社会福祉法人三磯会
事業所名	グループホームみうら富士
訪問調査日	令和2年12月22日
評価確定日	令和3年2月12日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

### ○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471901338	事業の開始年月日	平成14年4月1日	
		指定年月日	令和2年4月1日	
法人名	社会福祉法人三磯会			
事業所名	グループホームみうら富士			
所在地	( 239-0842 )			
	神奈川県横須賀市長沢6-45-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	令和2年12月1日	評価結果 市町村受理日	令和3年6月23日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るくゆったりした環境の中、お一人お一人がその方らしく過ごして頂ける様配慮し支援させて頂いています。

家庭的な雰囲気も大切にしています。すぐ傍で食事を作っているの、美味しい匂いにつられて自然とホールに皆様が集まってきます。

寝たきりの状態になっても入浴を楽しんで頂ける様、機械浴の設備を整えています。

ご意向に応じて、最期まで心を込めて支援させて頂きます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和2年12月22日	評価機関 評価決定日	令和3年2月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●グループホームみうら富士は、社会福祉法人三磯会の運営です。法人の名前である「三磯」は、横須賀市内にある長沢海岸の「三ツ磯」と呼ばれる岩場が名前の由来となっています。ここ「グループホームみうら富士」は、京浜急行「YRP野比駅」からバスで10分程の「川原田」バス停で下車した目の前にあります。建物前の道路は「通研通り」と呼ばれており、街路樹はソメイヨシノで、春になると1.8kmに渡って桜並木が続いているため、遠出をしなくても花見を楽しむことができます。また、通研通りの南側には、グループホームの名前でもある「三浦富士」(標高183m)が広がっています。事業所の周辺には畑も多く残っており、のどかな環境下にあります。

●事業所では、年中行事に合わせたイベントを多数開いています。今年(2020年)は、コロナウイルス感染症の影響により回数減や規模縮小もありますが、利用者が季節や月日の変化を楽しく感じられるように工夫しています。大晦日と元旦には、年越しそば・出前の寿司・おせち料理・お雑煮などを提供したり、初詣に行くなど、昔ながらの文化や風習を楽しんでいただけるように支援しています。また、以前家族会では、室内のミニ運動会を開催し、パン食い競走やくす玉割りで家族も一緒になって楽しみました。コロナ禍になる前からイベントなどを数多く取り入れていましたが、多くのイベントがあることで、コロナ禍でもマンネリ化することなく、利用者はメリハリのある生活を送ることができています。

●地域との交流では、地元の「入(いり)町内会」だけに限らず、近隣にある複数の町内会とも交流があります。各町内会長や民生委員の人が運営推進会議の委員にもなってくれており、お祭り・盆踊り・防災訓練など様々な場で協力関係ができています。他にも地元の保育園児との交流会、地元中学校生徒の職場体験など、幅広い交流があります。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみうら富士
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者一人一人がその人らしく生活して頂ける様対応に心掛け、スタッフ一同理念に基づき行動実践している。	事業所の基本理念である「毎日の生活の中で、お一人一人の生活の仕方を尊重し、その人らしく、生き生きと、豊かな暮らしをしていただけることを目標としています。」を事務所に掲示しています。職員はこの理念に基き、「業務をこなす」という心構えではなく、常に「利用者優先」で支援を行うよう努めています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナの影響で地域の行事が中止となっている。例年では地域のお祭りに敷地を解放。接待所として神輿・山車が入ってくる。夏祭りの会場になり、地域の方と共に参加させて頂き夏の楽しみになっている。施設の防災訓練に民生委員が見学に來たり、地域へ呼ばれた事もある。	地元の「入（いり）町内会」だけに限らず、近隣にある複数の町内会とも交流を深めています。今年は感染症拡大防止により中止になっていますが、例年は、町内会の夏祭り・防災訓練が行われ参加しています。夏祭りの時には、駐車場を神輿の休憩所、盆踊り大会の会場として開放しています。他にも、保育園児が施設に来て歌を披露してくれる催し、長沢中学校生徒の職業体験、地域の人による民謡の披露など、様々な形で地域交流を行っています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方から相談を受ける事も多く、近隣事業所と連携し支援させて頂いている。地域包括支援センターからの依頼で、認知症サポーターの活動の場としての受け入れを了承している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年はコロナの状況を見ながら開催。近隣の民生委員・町内会長・ご家族代表にご協力頂いている。年6回の内2回はデイサービスと合同開催。日頃の様子を写真を交え伝えている。地域の話も伺いながら良い情報交換の場になっている。年に1回は市や地域包括支援センターの参加がある。	運営推進会議は、町内会長・民生委員・家族代表2名・事業所職員をメンバーとして開催しています。町内会長は、所属町内会だけでなく、隣接地区の町内会長にも参加していただけており、出席委員が10名を超えることもあります。例年は、年に6回開催し、施設での行事などについて報告しています。委員からは、行事をはじめ防災訓練などでの協力・応援の申し出もあり、また、町内会ごとの状況報告や話題も提供され、貴重な情報交換の場になっています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議後の議事録を毎回提出しており、取り組みについては理解してもらえていると思っている。不明な事があれば、電話にて相談している。	運営推進会議の議事録は毎回担当者に提出しており、年1回は参加していただき事業所の実情を把握していただいています。また、「横須賀市グループホーム協議会」に加入しており、総会や研修会に参加しています。さらに、地域包括支援センターの依頼を受け、認知症サポーター養成講座修了者の活動場所として登録しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針に基づき、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関やホールへの出入り口は施錠していない。いつもは開放してフロアを自由に行き来出来るようにしているが、今年は感染予防の為、扉を閉め行き来を制限している。	身体拘束廃止の指針に基づき、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。3ヶ月に1回開催する身体拘束廃止委員会は、日頃のケアで身体拘束や虐待に該当するような言動や対応がないか、お互いに振り返り、意見交換を行いながら共通認識を図り、身体拘束・虐待のないケアに取り組んでいます。また、委員会終了後は職員アンケートを実施し、結果を集約してミーティングで報告しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月毎の身体拘束廃止委員会にて、身体拘束や虐待について学び、日頃のケアを振り返る機会を設けている。今年は集まらずに書面で学ぶ方法をとっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については、研修等により理解している。実際後見人がついておられる方が入居されている。毎月手紙で収支等の報告を行っており、必要時はご家族を交え連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分説明しご理解頂いている。重要事項等変更が生じる際は、毎月お送りしている手紙にてお知らせし、面会や電話の際に直接お伝えしてご理解頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時にご意見・ご要望を伺うようにしている。運営推進委員会や家族会（今年は開催出来ない）の場も大切にしている。外部評価のアンケートでのご家族のご意見も参考にして、より良い運営に活かしている。	今年度は感染症拡大防止のために開催できていませんが、例年は、家族会を年に2回実施し、ホットプレートランチ会・室内運動会など多彩な交流の場を設けています。家族が面会に訪れた際には要望や意見を伺い、連絡ノートに記入して、全職員で共有しています。要望の一つに、職員の異動について知らせてほしいとの声があったので、早速、家族に配布するおたよりには掲載するようにしました。運営推進会議にも家族代表2名に参加してもらっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全部署の代表参加の定例会（月1回）。部署内で行うミーティング（月1回）にて検討された意見や提案を反映するようにしている。個々に提案があった際にも同様に対応している。	運営法人の理事長も施設長現場に入ることがあり、都度職員からの意見や提案・悩みなどについて話を聞いています。また、全体で話し合った方が良いと思われる事項は、連絡ノートに記入してもらい、ミーティングの議題にあげ意見交換した後に反映させています。みうら富士では、各部署の代表が集まる「定例会」があります。定例会の内容はミーティングで各部署の職員に報告され、情報を共有しています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の様子を観察し、勤務状況を把握している。必要時は個々に話をする機会を持ち、環境や条件の整備に努めている。得意分野を生かしやりがいを持って勤務して頂ける様配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の就業年数や力量に応じ、見合った研修への参加や資格の取得を促している。産業医による施設内研修や、市や協議会主催の研修への参加を積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年はコロナの影響で、グループホーム協議会による会議や研修は開催されていない。近隣エリアの事業所同士、コロナの対策や発生状況等の情報交換をする事はある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を時間を掛けて伺う事で、安心できる存在として受け入れて頂く。思いを訴え易い関係を作る。スタッフ・環境に慣れて頂き、安心して過ごして頂ける様にする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅での様子や昔のお話を伺いながら、ご家族を通じてご本人の理解を深め、受け入れている。ご家族が話し易い関係作りを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご意向を伺いながら、入居前のアセスメントをもとに、スタッフと支援の方法を決めている。2か月位生活の様子を把握しながら、必要と思われる支援を把握し、方法の見直しを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人ずつ可能な事・お好きな事を行って頂いている。朝の掃除・食後の後片付け・洗濯物の片付けは毎日共に行っている。おやつを作ったり、園芸を楽しんだり、敷地内の雑草を抜いてもらったりと、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で、外出と外泊は見合わせて頂いている。面会は状況に応じて方法を変えながら、なるべく可能にしている。今年は家族会の開催が出来ず、共に何かに取り組む時間が設けられなかった。日頃の様子をより細かくお伝えする様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で制限はあるが、ご友人が面会に来られたり、遠方に住むご家族が手紙や電話を下さる事がある。ご希望によってお返事をするお手伝いをさせて頂いている。	利用者のなじみの人との交流が継続するように、様々な配慮をしています。家族が友人などと一緒に来訪された際には、一緒にくつろげるような場を提供しています。また、電話連絡、年賀状や手紙が届いたときには本人伝え、電話の取り次ぎや要望があれば職員が投函などの支援を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで共に過ごす事が多く、お好きな席で自由に過ごして頂いている。会話を楽しんで頂けるよう、ソファを用意している。ご利用者同士が共に楽しめるレクリエーションや行事を提供。お互いに声を掛け合ったり協力するお姿が見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族が施設に寄って下さったり、相談等の連絡を下さる事や、生前の話をしながら共に懐かしむ事もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前のアセスメントを基にしながら、日頃の生活の様子や会話の中から、以降の把握に努めている。ご家族に相談する事もある。	入居時のアセスメントで本人・家族・在宅時のケアマネージャから、過去の生活歴、ADL・IDL、暮らし方の希望などについて情報を聞き取り、アセスメントシートを作成しています。入居後は日々の暮らしや会話の中で得られた情報や職員の気づきを記録や日誌に記入し、職員間で情報共有しながら思いや意向に沿った支援に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、生活歴を含めたアセスメントを行い把握に努めている。ご本人・ご家族以外に、入居前のケアマネやサービス事業所等からも情報収集する事がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子やお身体の状態（往診結果等）は、ケース記録や日誌・専用のノートに記録をしている。記録を共有しながら、スタッフ全員が把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気付いた事をスタッフが紙に書き出し、課題や支援について話し合いを行う。ご本人・ご家族からも意向を確認し、これらを基にケアマネが計画書を作成している。状態のアセスメントは、居室担当を中心に行っている。	入居時に作成したケアプランには、職員が日々接した中で気づいたことを書き加えていき、約2ヶ月後に本プランを作成しています。その後も、気づいたことを書き加えていき、6ヶ月または12ヶ月後に見直しを行っています。見直しは、入居者ひとりごとにつく担当スタッフ（常勤1名及び非常勤）が中心となって行います。担当者が衣替えや部屋の掃除なども行って利用者との関係が深まるようにしています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書の課題に基づきチェック表を作成。毎日支援の状況をチェックしている。気付いた点や状態の変化も記入。目標の期間や状態の変化に応じて話し合いを行い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族からの意向には柔軟に対応する様にしている。買い物や外食を計画し、積極的に外出してきたが、今年はコロナの影響で提供が困難であった。誕生日には希望のメニューをお出ししてお祝いしたり、普段から食事面や活動面の希望に沿う様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で開所当初から毎週来て頂いていたお話ボランティアや、園児・ボランティア団体の来所が見合わせになっている。周辺を散歩している際に近隣の方と挨拶したり、畑の方が収穫物を分けて下さったりして、地域の方には温かく受け入れて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に往診を依頼されている方が多く、複数の診療所に関わって頂いている。往診の際必ずスタッフが立ち会い、日頃の様子を伝え、気になる事を相談している。内服や治療に関して確認が必要な際は、早急にご家族へ連絡を入れ確認している。	入居時にかかりつけ医の有無を確認し、事業所の協力医療機関についても説明したうえで、主治医を決めていただくようにしています。現在は、入居前からのかかりつけ医の往診を継続する方が多く、複数の医療機関が入っています。往診の際は、職員も立ち会うとともに、「往診ノート」に往診結果を記入し、全職員が閲覧することで、情報を共有しています。なお、歯科や精神科についても、必要に応じて往診してもらっています。また、みうら富士の他の部署には看護師が常駐しており、必要なときは支援を受けられる体制ができています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームは看護師不在の為、他部署の看護師の協力を得ている。緊急時は往診医へ連絡し指示を受け対応している。受診が必要な際は、ご家族に協力を依頼。状況に応じてスタッフが対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はMSWを通じ日頃の様子を書面で伝えている。状態把握の為病院へ訪問したり、情報のやり取りをしながら退院調整を行っている。ご家族の意向により、病状説明やカンファレンスへの立ち合いも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けた意向の確認を行っている。実際その状態になった時に、再度意向を確認。お受けできる自然な形でのお看取りを希望された際には、主治医と連携して最期まで支援させて頂いている。	終末期のあり方については、入居時に家族に意向を確認していますが、実際に重度化した時点で、改めて意向を確認しています。家族には、医師の往診時に来訪してもらうなどの方法により、医師からの説明を受けてもらっています。事業所での看取りを希望される際には、家族、医師、職員で連携しながら、最期まで支援しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命の講習は、スタッフ全員が受講し知識を持つようにしている。定期的に訓練を行い、緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回夜間を含めた避難訓練を実施。ご利用者も一緒に参加して頂いている。施設の防火設備についても学ぶ機会を作っている。各部署で避難袋を用意。施設として非常食を備蓄している。	みうら富士全体で「安全衛生委員会」を設置しており、委員会の職員が中心となって、土砂災害・火災・地震を想定した避難訓練を行っています。他にも、施設点検により停電になるときは、ガスコンロを使って料理を作る訓練をグループホーム独自で行っています。みうら富士の建物は耐震構造で、スプリンクラー・非常電源・消火用地下水槽も備えています。また、避難袋（リュック）、3日分の備蓄品も備えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄等の声掛けには十分配慮している。個々の主張を尊重し、否定を避け同調し対応する様心掛けています。個人情報に関しては、ご家族の同意を頂いた上で使用している。	利用者のプライバシーを確保するために、教室の入り口には暖簾をかけて、ドア開放時にも室内が見られないよう配慮しています。利用者への呼びかけは、苗字に「さん」を基本としていますが、同姓の方がいる場合などには、名前で呼ぶこともあります。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	焦らずにゆっくりと話を伺う。発語の少ない方や自己決定が困難な方に関しては、ご本人が選択できる様な言葉掛けにより意向を把握している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務が優先にならない様、お一人お一人の意向やペースを尊重し支援している。安全を確保し、生活のリズムが保てるよう、声掛けや誘導はさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選んだり、化粧やマニキュアもご希望に沿って支援している。定期的に美容師を依頼し、希望の髪形にカットしてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホールの真ん中に台所があるので、調理中の音や匂いをすぐ傍で感じて頂ける。野菜の下ごしらえや食事の後片付けは、積極的に手伝って頂き、時間が掛かっても共に行っている。	食事については、業者から食材を購入し、ホールに面したオープンキッチンで、職員が調理しています。出来る方には、野菜の下ごしらえ・テーブル拭き・後片付けなど、個々に応じて役割をお願いし、残存能力の維持につなげています。季節や歳時に合わせた食事も提供しながら、食事を楽しんでいただけるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れたメニューを提供。季節のフルーツもお出しするようにしている。摂取状況は毎食チェックしている。水分は食間や入浴後にも提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。入れ歯を外し、歯磨きやうがいを行う。必要に応じスポンジブラシを使用。ご自分で出来る方には声掛けをしてお任せしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に時間・排泄状況をチェック。全体で把握している。時間を見て誘導し失禁前にトイレで排泄出来るよう支援している。立位困難な方に関しては、スタッフ2人で対応しトイレへ移乗している。	排泄チェック表に、排泄時刻・状況を日々記録し、常に最新の記録に基いて傾向を確認しながらトイレに誘導するようにしています。なるべくトイレで排泄できるような形での支援を心がけ、オムツなどの使用は極力控えています。便秘対策として、ご飯には雑穀米やもち米を混ぜている他、毎朝、ヨーグルトを提供するなどの工夫も取り入れています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の間隔を把握。適度に身体を動かしながら自然排便を促す為、毎朝乳製品を取り入れている。主治医と相談の上、内服での調整や下剤・浣腸を使用する事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	浴室の都合で曜日を決めて入浴して頂いている。入浴は皆さんが1番になる様順番に声を掛けている。お湯の好みや時間は身体に影響のない範囲でご本人に合わせている。状態に応じ機械浴での入浴も提供している。	浴室は広くゆとりのある造りになっており、浴槽は、足をまたぐことなく、手すりのついた階段で降りられるよう設計された、造り付けの浴槽になっているので、足腰の負担が少ない姿勢で入浴することができます。また、施設内に機械浴の設備があるので、重度化した方も入浴を行えています。ゆず湯や菖蒲湯なども行い、入浴が楽しみとなるよう工夫しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃から午睡をされる方や疲れ易い方は、日中でも自室にて休んで頂いている。夕食後は自室やホールにて自由に過ごして頂いている。就寝時の明るさは好みに合わせ対応。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては全面的にスタッフにて管理している。処方にあわせその都度お渡しし内服をチェックしている。処方内容は把握し易い様ファイルを作成。変更時は内容をスタッフに伝えている。残薬管理は薬剤師に任せており、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事・好きな事に取り組んで頂けるよう支援している。手伝いが好きな方にはお願いし、毎回感謝を伝えている。園芸が好きな方には楽しめる環境を用意し、長距離の散歩がお好きな方には、個別にお付き合いしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナの影響で外出を控えており、少し遠くへドライブに出掛けたり、近くの公園へ散歩に出掛ける程度となっている。	コロナ禍の影響がある中でも、人混みなどを避けながら毎日散歩に行く時間を設けています。また、ワゴンカーに乗って、周辺地区を1時間くらいかけてドライブする外出支援も毎月2~3回行っています。散歩やドライブにより、季節の移り変わりなどを肌で感じてもらえるようにしています。散歩では、元気な人には歩く距離を増やすなど下肢筋力の維持につなげています	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かり金は全面的にスタッフにて管理している。買い物に出掛け、自分で希望の物を購入する機会を作っていたが、コロナの影響で今年はいっていない。希望の物がある際は、ご家族に伝えるかスタッフが購入しお渡しする様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際にはその都度対応している。ご家族からご本人に連絡が入る際も同様に対応。携帯電話を持参されている方は、自由に通話して頂いており、必要時支援させて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適温で過ごして頂ける様配慮している。日中は陽の光を感じて頂き、日が落ちるとカーテンを引いている。共用のトイレは常に清潔を保ち臭いにも注意している。目の前の畑や木々から季節を感じる事が出来る。ホールは季節に合った飾り付けと、皆さんで作った作品を掲示している。季節の行事も大切にしている。	リビングは広々としており、テーブルやソファがゆとりをもって配置されるなど利用者の動線も確保されています。また、床暖房が導入されており、冬場でも快適に過ごすことができます。壁には、スタッフと利用者と一緒に作った作品が適度に掲示され、清掃は、専門のスタッフが行っています。今年度は見合わせていますが、年に4回は専門業者による窓清掃・床清掃を行っています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをいくつか配置しており、自由に座って過ごして頂いている。気の合う方同士が談笑されている事も多くある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の出入口には、それぞれお好みの暖簾を掛けて頂き自室の目印にもなっている。入居の際、持参された馴染みの家具の配置や、クローゼットの活用をお手伝いさせて頂いている。ご家族の写真やカレンダーは自由に飾って頂いている。	居室には、洗面台・エアコン・カーテン・クローゼット・ベッドが備え付けられています。居室入り口には、プライバシーの確保と自室の目印となるようにという配慮で暖簾をかけています。利用者それぞれの、好みのカレンダーやポスター、家族写真などが飾られ、個性のある居室作りがされています。毎朝の掃除は、担当スタッフと一緒に頂くことで、運動確保と清潔保持の両方の効果を生み出しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂ける様、家具や設備の配置に注意している。外出時下駄箱から靴を持って来たり、自室やホールのカーテンを開閉したり、着替えを用意したりと、可能な事はご自分で頂く様安全に配慮しながら支援している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム みうら富士

作成日

令和 3年 4月 1日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	健康面や医療面、安全面について心配な点はないか？との問いに「あまりない」と答えた方が多かった。	「心配がない」と多くの方に答えて頂けるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心配な点をまめに伺うようにする。</li> <li>・往診や処方内容をお知らせするようにする。</li> </ul>	令和3年4月 ～ 令和4年3月
2	7・9	コロナの影響で、面会や外出の制限が続いており、希望通り対応が出来ていない。	安全な方法で、面会や外出を再開していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチン接種の状況を見ながら対応する。</li> <li>・状況に応じて、徐々に再開する。</li> </ul>	令和3年4月 ～ 令和4年3月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。